

今夏松川町で初開催

全日本実業団 サイクル インター 周辺を会場に

松川町は26日、飯田市で昨年まで5年間続けた「全日本実業団サイクルロードレース」を今年から町内を会場に開く、と発表した。開催日は7月31日と8月1日の2日間。大島の温泉施設「清流苑」をスタート地点とし、中央道松川インター周辺を周回するコースに決めた。

竜口文昭町長は「飯」と期待を込めた。町市で培われた自転車文化を引き継ぐ。町として自転車への馴染みは薄い、環境問題に絡め、それらを見つめ直す機会にもなれば」

町道「桑園横断線」付近を周回する。ゴール地点は清流苑をやり下った桑園北部に置く。半周コースは松川インター北の桑園地籍で折り返し、1周コースは

県道飯島飯田線の1部を活用する。コース一帯には果樹園が広がりアルプスの眺めも良く、竜口町長は「くだもの里まつかわ」をPRする機会にもしたい」と話した。

半周の折り返し地点には「イベント広場」とし、物産を販売したり町民が観戦できるスペースを設ける計画だ。

開催日は町民の声を



会場で開催を発表する竜口町長

反映させ、果物観光のシーズンをずらした。標高差はおよそ150メートル。自転車競技を企画、運営する組織「NPO南信州バイコロジ協会」会長の熊谷秀男さん(60)は「飯田市龍江川は、コースは全般的になだらからで「難易度は中程度。飯田市

大会に比べ、選手にとって走りやすい。出場カテゴリーのうちトップクラス「TR」の完走率が、飯田市大会で25%だったことに触れ「完走率が上がり激戦、混戦も予想される」とみている。

全国で繰り広げられる15戦のうち12戦目。種目は個人サイクルロードレースで、カテゴリーは男子3クラスと女子1クラスの計4つ。うちTRのみ1周するコースを使い、20周計150キロで優勝を競う。全国各地から選手約400人が集まる見込みという。

町は初開催に向け、近く実行委員会を立ち上げる。